

令和6年度 第1回 渋川市市政モニターアンケート結果

渋川市は、市民の皆様から市政等に関する意見や要望をお聞きし、各種施策の推進や計画立案の参考とさせていただくことを目的に市政モニターアンケートを実施しました。

令和6年度 第1回 アンケートの集計結果は次のとおりです。

- 【調査対象】 令和6年度市政モニター44人（公募10人・団体推薦34人）
＜モニターの要件＞
- ・市内に住所を有する18歳以上の人
 - ・公務員や地方公共団体の議員などでない人
 - ・同一世帯に市政モニターに応募しようとする者がいない人
- 【実施期間】 令和6年6月18日（火）～7月2日（火）
- 【実施方法】 アンケートフォームによる（一部、書面（郵送）調査）
- 【実施内容】 1. 渋川市とハワイ郡との交流について（問1～問6）
2. 市の農林行政の推進について（問7～問16）
- 【回答状況】 アンケート調査回答者：40人（20歳代～80歳代）
回答率：90.9%

参考

＜アンケート回答者の情報＞

- （1）居住地 渋川地区（16人）、伊香保地区（6人）、小野上地区（2人）、子持地区（6人）、赤城地区（5人）、北橘地区（5人）
- （2）年 齢 20歳代（4人）、30歳代（8人）、40歳代（5人）、50歳代（3人）、60歳代（8人）、70歳代（9人）、80歳代（3人）

渋川市

（広報室）

令和6年度 第1回
 渋川市市政モニターアンケート結果

1. 渋川市とハワイ郡との交流について(伊香保ハワイアンフェスティバル)

市は、姉妹都市・友好都市提携により、アメリカ合衆国ハワイ郡などの海外の都市と、教育・産業・観光などの分野で相互の交流を図り、多文化共生社会を推進しています。

ハワイ郡との交流は、旧伊香保町においてハワイ王国公使別邸を町の史跡に指定したこと(昭和60年10月1日)を契機に始まりました。平成9年1月には、ハワイ郡と姉妹都市協定を締結し、現在も継続して交流を図っています。なお、公使別邸は敷地内にあるガイダンス施設と共に一般公開しています。

ハワイ郡との交流のひとつとして、例年8月上旬に伊香保地区で行われる『伊香保ハワイアンフェスティバル』は、今年で26回目の開催となり7年ぶりにフラコンペティションを開催します。市は、このイベントを目的に国内外から訪れる大勢の人たちを歓迎し、渋川市全体の活性化につなげるため、市全体でハワイアンムードの高揚を図りたいと考えています。

問1 渋川市とハワイ郡とは、姉妹都市・友好都市提携交流があることを知っていましたか。

- ①知っていた(31人・79.5%)
 ②知らなかった(8人・20.5%)
 ※未回答(1人)

※どの年代でも「①知っていた」の回答が多いが、全体の約2割が「②知らなかった」と回答しており、今後も周知が必要と言える

年齢別回答状況				単位:人
()は人数	①	②	未回答	合計
20歳代(4)	3	1		4
30歳代(8)	5	3		8
40歳代(5)	5			5
50歳代(3)	2	1		3
60歳代(8)	8			8
70歳代(9)	6	2	1	9
80歳代(3)	2	1		3
合計(40)	31	8	1	

問2 姉妹都市・友好都市提携交流の一部として、ハワイアンフェスティバルが開催されることを知っていましたか。

- ①知っていた (29 人・74.4%)
 ②知らなかった (10 人・25.6%)
 ※未回答 (1 人)

※問1の回答状況とほぼ変化はないが、20歳代の2人が「②知らなかった」の回答に変化。姉妹都市・友好都市提携交流の一部としてイベントを実施していることの周知も必要であると言える

年齢別回答状況				単位: 人
()は人数	①	②	未回答	合計
20歳代(4)	1	3		4
30歳代(8)	5	3		8
40歳代(5)	5			5
50歳代(3)	2	1		3
60歳代(8)	8			8
70歳代(9)	6	2	1	9
80歳代(3)	2	1		3
合計(40)	29	10	1	

問3 姉妹都市・友好都市提携交流の一部として、ハワイ王国公使別邸が公開されていることを知っていましたか。

- ①知っていた (23 人・59.0%)
 ②知らなかった (16 人・41.0%)
 ※未回答 (1 人)

※回答が「①知っていた」を「②知らなかった」を上回る年代もある。ハワイアンフェスティバル (問2)と比較しても、ハワイ王国公使別邸の公開が姉妹都市・友好都市提携交流の一部であることの認知度は低い

年齢別回答状況				単位: 人
()は人数	①	②	未回答	合計
20歳代(4)	2	2		4
30歳代(8)	4	4		8
40歳代(5)	3	2		5
50歳代(3)	2	1		3
60歳代(8)	7	1		8
70歳代(9)	3	5	1	9
80歳代(3)	2	1		3
合計(40)	23	16	1	

問4 伊香保ハワイアンフェスティバルについて、該当するものを選んでください。

- ①イベント会場に行ったことがある (行ってみたいと思う) (32 人・82.1%)
 ②イベント会場に行きたいと思わない (7 人・17.9%)
 ※未回答 (1 人)

※年齢別の回答から、ハワイアンフェスティバルに行ったことがなく、行きたいと思わない人は、50歳代以下の一部であることがわかる。20歳代は半数が、50歳代は半数以上が「②イベント会場に行きたい」と思わないと回答している

年齢別回答状況				単位: 人
()は人数	①	②	未回答	合計
20歳代(4)	2	2		4
30歳代(8)	6	2		8
40歳代(5)	4	1		5
50歳代(3)	1	2		3
60歳代(8)	8			8
70歳代(9)	8		1	9
80歳代(3)	3			3
合計(40)	32	7	1	

問5 「問4」で回答した内容に合わせて下記に回答してください。

■①イベント会場に行ったことがある（行ってみたいと思う）

と回答した方（32人）

- ・イベントに「行った感想」または「行ってみたいと思う理由」を教えてください。
- ・伊香保ハワイアンフェスティバルがどんなイベントであれば繰り返し行ってみたいと思いますか。

＜簡易抜粋＞

- ・ハワイに行ったような雰囲気がよかった
- ・本場の人の踊りは、さすが素晴らしく、また、見たいと思う
- ・姉妹都市提携交流に相応しいイベントだと思う
- ・子ども達が楽しめるものがあれば行ってみたい
- ・フラだけでなく一般の方が楽しめる内容があるとリピート率も上がるのでは
- ・マンネリ化を改善して継続していく時期だと思う
- ・来年度がどんなものになるか期待できる仕掛け
- ・コンテンツの少なさが目立ち、イベントの滞在時間が短い
- ・ハワイのことを知る写真展とか野外上映でビデオを見られるといいかも

②イベント会場に行きたいと思わないと回答した方（7人）

- ・イベントに行きたくない理由を教えてください。

＜簡易抜粋＞

- ・移住して1年の人間から見て、白い砂浜と青い海のハワイと、雄大な山々と斜面に建物がひしめく伊香保は真逆のイメージがあります
- ・フラダンスがある他にどんな事があるかわからないため、興味を惹かれない
- ・素人の方がフラダンスを披露しているイメージで特に魅力を感じない

問6 市全体でハワイアンフェスティバルを盛り上げるため、市民のハワイアンムードを高めるアイデアを自由に記入してください。

<簡易抜粋>

- ・伊香保以外でも、年齢を問わず誰でも気軽に参加しやすい場所でイベント等を開催する
- ・本場のフラダンサーやウクレレミュージシャンの招聘
- ・市内の店舗や公共施設など町全体での雰囲気作り
- ・JR 渋川駅では SL みなかみ号運転日におもてなしとしてホームでハワイアンミュージック、フラダンスの披露があった。今後も JR と協力して開催するのが望ましい
- ・道の駅や食の駅などでもハワイと渋川の交流と関係性がわかる商品があると観光客にも周知されそう。
- ・小、中学校などで総合的な学習の時間などハワイと渋川の関係を知る授業を取り入れる
- ・入場者にアロハシャツを無料提供
- ・ハワイの現地人（特に日本の方）にどれだけ認知されているか調べてもよいと思う
- ・例年天候が荒れるので参加者が通るルートは屋根がほしい
- ・ハワイを PR する動画がない
- ・できる限り「ハワイで提供されているもの」に近い内容の食を提供することで、よりお祭りとしての一体感を出す。（EX：かき氷▲→アイスシェーブ○）
- ・市内も活用することで更にコンテンツ増を狙えないのか？
- ・伊香保でも、少し下に行くと、ハワイアンフェスティバルの感じはなくなってしまう
- ・ハワイの旅行券があたる抽選会イベントの開催。参加資格は市内各所をスタンプラリーで回るなどする
- ・小学校でフラダンス教室または鑑賞
- ・市役所などでアロハシャツ等の販売
- ・市役所のわかりやすいところに関連した展示があると把握はしやすい

2. 市の農林行政の推進について

農林業を取り巻く環境は、農林業従事者の高齢化や農地・林地の荒廃など、極めて厳しい状況にあり、多くの農林業従事者が将来に強い不安を抱えています。

このような状況の中、渋川市は、農林産物の生産・消費の拡大や他産業との連携による農林業の振興を図るため、市の農林業の将来像を設定し、その実現に向けた施策を計画的に推進することを目的に「渋川市農林業振興計画」を策定しています。

この計画の計画期間が令和6年度末で満了となることから、令和7年度以降の計画を策定するため、市内消費者の皆さんの農業の現状に対する意見や要望の確認を進めています。

問7 農業に対するイメージで当てはまるものを全て選んでください。

- ①食料などを生産する重要な産業である（37人・94.9%）
- ②農作物を育てて、販売するというやりがいがある（19人・48.7%）
- ③豊かな自然環境の中で仕事ができる（17人・43.6%）
- ④組織に縛られず、自分の考えでできる（10人・25.6%）
- ⑤経営の仕方によっては儲かる（19人・48.7%）
- ⑥重労働である（26人・66.7%）
- ⑦天候に左右され、収入が不安定である（24人・61.5%）
- ⑧苦勞が多い割には儲からない（8人・20.5%）
- ⑨生き物（作物や家畜）相手に生活が拘束される（25人・64.1%）
- ⑩特にない（1人・2.6%）
- ⑪その他（1人・2.6%）
- ※未回答（1人）

<その他意見>

- ・ITとDXの力が発揮できる業種である

年齢別回答状況												単位：人	
（）は人数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	未回答	合計
20歳代(4)	4	1	2		2	4	3	1	3				20
30歳代(8)	7	2	1	2	4	5	3	1	5	1	1		32
40歳代(5)	5	3	2		2	5	3	2	4				26
50歳代(3)	3	1		1	1	2	3		2				13
60歳代(8)	8	6	6	3	3	6	7	2	5				46
70歳代(9)	7	4	5	4	5	4	5	2	6			1	43
80歳代(3)	3	2	1		2								8
合計(40)	37	19	17	10	19	26	24	8	25	1	1	1	

※「①食料などを生産する重要な産業である」は全ての世代で最多選択の値（同数を含む）となっている。また、「⑥重労働である」・「⑦天候に左右され、収入が不安定である」・「⑨生き物（作物や家畜）相手に生活が拘束される」は、複数の世代で回答数上位3位以内（同数を含む）になっている

問8 あなたが農業や農村に期待するものは何ですか。該当するものを選んでください（最大3つ）。

- ①新鮮で安全な農畜産物の供給をする（34人・87.2%）
- ②雨水の貯水などにより、洪水の防止や土砂の崩壊を防ぐ（8人・20.5%）
- ③雨水の浸透により地下水を豊かにする（7人・17.9%）
- ④自然環境や田園景観の保全・形成をする（24人・61.5%）
- ⑤農作業体験や自然体験など、教育・レクリエーションの場を提供する
（19人・48.7%）
- ⑥豊作祈願などに由来する古くからの伝統文化や祭りなどの行事を継承する
（6人・15.4%）
- ⑦特にない（1人・2.6%）
- ⑧その他（1人・2.6%）
- ※未回答（1人）

<その他意見>

- ・世界に認知される輸入いらずの渋川の強み

年齢別回答状況										単位: 人
()は人数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	未回答	合計
20歳代(4)	2	1	1	4	1	1				10
30歳代(8)	7	1	1	3	2		1	1		16
40歳代(5)	5	2	1	2	2	1				13
50歳代(3)	3		1	1	3					8
60歳代(8)	8	2	1	5	5	2				23
70歳代(9)	8	1	1	6	5				1	22
80歳代(3)	1	1	1	3	1	2				9
合計(40)	34	8	7	24	19	6	1	1	1	

※全体の回答で最多となった「①新鮮で安全な農畜産物の供給をする」は、20～70歳代の回答で、回答数上位2位以内（同数を含む）になっているが、80歳代では3番目に多い回答となっている。全体の回答が2番目に多かった「④自然環境や田園景観の保全・形成をする」は、50歳代を除く全ての世代の回答で、回答数上位2位以内（同数を含む）となっており、50歳代では3番目に多い回答になっている

問9 あなたは今ある渋川市の農地がどのようになって欲しいと思いますか。

当てはまるものを全て選んでください。

- ①今ある農地はできるだけ残してほしい（15人・38.4%）
 - ②一生懸命農業をやっている農家の農地は残してほしい（30人・76.9%）
 - ③生産性・作業効率の低い農地は減っても仕方ない（10人・25.6%）
 - ④工場・宅地などへの転用を考えるべき（5人・12.8%）
 - ⑤わからない（1人・2.6%）
- ※未回答（1人）

年齢別回答状況						単位：人	
（）は人数	①	②	③	④	⑤	未回答	合計
20歳代(4)	2	4	1				7
30歳代(8)	2	5	1		1		9
40歳代(5)	2	2	3				7
50歳代(3)		2		2			4
60歳代(8)	4	7	2	2			15
70歳代(9)	5	7	3	1		1	17
80歳代(3)		3					3
合計(40)	15	30	10	5	1	1	

※「①今ある農地はできるだけ残してほしい」・「②一生懸命農業をやっている農家の農地は残してほしい」は農地を残すことへの意見であり、「③生産性・作業効率の低い農地は減っても仕方ない」・「④工場・宅地などへの転用を考えるべき」は農地を減らすことへの意見である。これを踏まえ、①・②の回答は、40・50歳代を除く全ての世代で回答数上位2位以内の回答になっており、多くの世代で、農地を残すことへの意見が多いことがわかる

問10 あなたは渋川産農畜産物についてどのような考えを持っていますか。

- ①ぜひ食べたい（23人・59.0%）
 - ②できれば食べたい（16人・41.0%）
 - ③できれば食べたくない（0人）
 - ④食べたいとは思わない（0人）
- ※未回答（1人）

※20～40・60・70歳代で
「②できれば食べたい」より「①ぜひ食べたい」の回答が多い（同数含む）。また、回答した全ての人が、渋川産農畜産物を食べたいと考えている

年 齢 別 回 答 状 況					単 位：人	
○は人数	①	②	③	④	未回答	合計
20歳代(4)	3	1				4
30歳代(8)	5	3				8
40歳代(5)	3	2				5
50歳代(3)	1	2				3
60歳代(8)	6	2				8
70歳代(9)	4	4			1	9
80歳代(3)	1	2				3
合計(40)	23	16	0	0	1	

問 11 渋川産農畜産物を手に入れやすくするためにどのような取り組みをすればよいと思いますか。該当するものを選んでください（最大3つ）。

- ①スーパーやショッピングセンターへの地場産コーナーの設置（充実）
（27人・69.2%）
- ②共同直売所を増やす（15人・38.5%）
- ③地域での朝市、夕市などの定期開催（14人・35.9%）
- ④商店街の八百屋や小売店での販売を強める（5人・12.8%）
- ⑤インターネット、広告、直売所マップなどの情報提供（16人・41.0%）
- ⑥農業に関するイベントの開催（11人・28.2%）
- ⑦農家個人の直売所を増やす（2人・5.1%）
- ⑧観光農園を増やす（4人・10.3%）
- ⑨その他（4人・10.3%）
- ※未回答（1人）

＜その他意見＞

- ・ SNS プロモーションを外部に託す
- ・ 学校給食への積極的利用
- ・ 移動販売車（高齢者の買い物問題も同時に解決しちゃおうという考え）
- ・ 農家と消費者それぞれがウィンウィンになる仕組みを作る。いくら地元産で良いものでも高いと買いにくい。これまでの販売ルートではおそらく難しいので見直しから

年齢別回答状況										単位：人	
（）は人数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	未回答	合計
20歳代(4)	3	2	1		2	1	1	1	1		12
30歳代(8)	4	1	3		6	2		1	1		18
40歳代(5)	3	1	1	2	1	2	1				11
50歳代(3)	2	2	2			1			1		8
60歳代(8)	5	5	4	1	4	3					22
70歳代(9)	8	3	2	1	2	2		2	1	1	22
80歳代(3)	2	1	1	1	1						6
合計(40)	27	15	14	5	16	11	2	4	4	1	

※「①スーパーやショッピングセンターへの地場産コーナーの設置（充実）」について、全世代で上位2以内の回答数（同数を含む）であることから、年代に関わらず、スーパーなど普段の買い物の中で渋川産農畜産物を手に入れられる環境が必要だと考えていることがわかる。「③地域での朝市、夕市などの定期開催」は、全体の回答が4番目（14人）であるが、全世代から選択されており、かつ、40歳代を除き全ての世代の回答で上位3位以内（同数を含む）となっていることから、多くの世代から注目されているようである

問 12 渋川産農畜産物の販売を促進するためにどのような取り組みが必要だと思いますか。該当するものを選んでください（最大3つ）。

- ①市の農畜産物とわかるような地場産表示（ロゴマークなど）をする
(13 人・33.3%)
- ②イベントを行い、PR 活動を実施する (13 人・33.3%)
- ③首都圏にアンテナショップを設置し、新たな販路を開拓する (3 人・7.7%)
- ④農業と食品関連企業が連携し、農畜産物を加工して商品化する(17 人・43.6%)
- ⑤飲食店・ホテル・旅館・学校給食などで、渋川市産の食材を使用する
(25 人・64.1%)
- ⑥渋川市産の農畜産物をブランド化する (13 人・33.3%)
- ⑦インターネットを活用した産地直送の仕組みを充実させる (17 人・43.6%)
- ⑧特にない (0 人)
- ⑨その他 (1 人・2.6%)
- ※未回答 (1 人)

<その他意見>

- ・前提がおいしいものでないと促進にならない。市として自信のあるものかそうでないかで販路は変わる。

年齢別回答状況										単位: 人	
()は人数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	未回答	合計
20歳代(4)	3			1	3	3	1				11
30歳代(8)	2	2	2	2	4	1	4		1		18
40歳代(5)	2	1		4	3	2	1				13
50歳代(3)	2	1		1	1	3	1				9
60歳代(8)	1	5		4	5	4	4				23
70歳代(9)	3	2	1	3	7		5			1	22
80歳代(3)		2		2	2		1				7
合計(40)	13	13	3	17	25	13	17	0	1	1	

※全体の回答数上位2位以内（同数を含む）となる「④農業と食品関連企業が連携し、農畜産物を加工して商品化する」・「⑤飲食店・ホテル・旅館・学校給食などで、渋川市産の食材を使用する」・「⑦インターネットを活用した産地直送の仕組みを充実させる」については、全世代から得票しており、年代に関わらず、重要だと考えられているようである。そのうち④と⑦は、回答数が同数であるものの、共に20歳代の回答を除いた場合、④はその他全ての世代において回答数上位3位以内（同数を含む）の回答になっている

問 13 あなたは農山村の資源保全に市民も参加すべきだと思いますか。

- ①強く思う（11 人・28.2%）
 ②やや思う（21 人・53.8%）
 ③あまり思わない（4 人・10.3%）
 ④思わない（0 人）
 ⑤わからない（3 人・7.7%）
 ※未回答（1 人）

年齢別回答状況						単位:人	
①は人数	①	②	③	④	⑤	未回答	合計
20歳代(4)	2	1	1				4
30歳代(8)		6			2		8
40歳代(5)	1	3	1				5
50歳代(3)	1		1		1		3
60歳代(8)	1	7					8
70歳代(9)	5	2	1			1	9
80歳代(3)	1	2					3
合計(40)	11	21	4	0	3	1	

※全体の回答として、回答者の8割以上の方が、少なからず農山村の資源保全に市民も参加すべきと考えている。特に、60・80歳代では、全ての方が、「①強く思う」または「②やや思う」と回答している

問 14 あなたは農業体験についてどのようにお考えですか。該当するものを選んでください（最大3つ）。

- ①温泉地の近くや豊かな自然の中で生活したい（9人・23.1%）
- ②摘み取り農園や観光農園で気軽に農業を体験したい（14人・35.9%）
- ③市民農園で自由に農作物を作ってみたい（7人・17.9%）
- ④農家の指導を受けながら農作業をしてみたい（18人・46.2%）
- ⑤農業を趣味と実益を兼ねて「年金＋農業所得」の生活をしてみたい
（8人・20.5%）
- ⑥ボランティアとして農家の作業を手伝ってみたい（3人・7.7%）
- ⑦農業の研修を受けて自分流の農業に取り組みたい（6人・15.4%）
- ⑧農村の様々な体験をしてみたい（4人・10.3%）
- ⑨農家民泊などで農家に泊まって生活体験などをしたい（7人・17.9%）
- ⑩将来、就農して永住したい（1人・2.6%）
- ⑪農業や農村にはあまり関心が無い（2人・5.1%）
- ⑫その他（1人・2.6%）
- ※未回答（1人）

<その他意見>

- ・ロボットを使った資源保全と拡大、肉体酷使のイメージからの離脱

年齢別回答状況													単位:人	
〇は人数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	未回答	合計
20歳代(4)	1	2	2	3	1	1			1		1			12
30歳代(8)	1	4	2	1			1	1	3		1	1		15
40歳代(5)	2	1		3	3		1		1	1				12
50歳代(3)		1		2	1		1							5
60歳代(8)	3	2	2	4	1	1	2	1	1					17
70歳代(9)		3	1	5	1	1	1	1	1				1	15
80歳代(3)	2	1			1			1						5
合計(40)	9	14	7	18	8	3	6	4	7	1	2	1	1	

※「②摘み取り農園や観光農園で気軽に農業を体験したい」は、全体の回答が2番目（14人）であるが、全世代から選択されており、かつ、40歳代を除き全ての世代の回答で上位3位以内（同数を含む）となっていることから、多くの世代から注目されていることがわかる

問 15 あなたが、浜川市の農業政策に期待することは何ですか。該当するものを選んでください（最大3つ）。

- ①農業後継者や新規農業者といった担い手の育成（27人・69.2%）
- ②大型直売所の整備や、地元の農産物の産地表示などの推進（3人・7.7%）
- ③より多くの安心で安全な農産物の生産の拡大（8人・20.5%）
- ④地域の特性を活かした農業の推進（14人・35.9%）
- ⑤有機農業や資源を有効に活用した環境にやさしい農業の推進（7人・17.9%）
- ⑥農業収入の向上など農業経営の支援（15人・38.5%）
- ⑦学校給食での地元農産物の使用拡大（11人・28.2%）
- ⑧「農」にふれあう機会（農業に関するイベント・講習会等）を開催し、農業や農村の役割について理解を深めるよう、学習会や交流会の機会を増やす（5人・12.8%）
- ⑨農業体験を充実させる（1人・2.6%）
- ⑩農業者や商工業者が連携し、新たな商品やサービスを開発する（9人・23.1%）
- ⑪農村の自然環境・景観を守り育てる（5人・12.8%）
- ⑫特にない（1人・2.6%）
- ⑬その他（1人・2.6%）
- ※未回答（1人）

＜その他意見＞

- ・既存農業者の負担軽減につながる IT と DX の力を駆使したロボット導入。そして、浜川市としての実益と実績の拡大。

〇は人数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	未回答	合計
20歳代(4)	2	1	1	2		2	1	1			2				12
30歳代(8)	5		1		1	4	2	1		3	1	1	1		20
40歳代(5)	3			2	1	2	1		1	2	1				13
50歳代(3)	2		1	1		2	1			1					8
60歳代(8)	6	2	3	4		2	3	1		1	1				23
70歳代(9)	7		1	3	3	2	3	2		1				1	23
80歳代(3)	2		1	2	2	1				1					9
合計(40)	27	3	8	14	7	15	11	5	1	9	5	1	1	1	

※「①農業後継者や新規農業者といった担い手の育成」・「⑥農業収入の向上など農業経営の支援」は全体の回答数も多く、全ての世代から選択されている。また、「③より多くの安心で安全な農産物の生産の拡大」・「④地域の特性を活かした農業の推進」・「⑦学校給食での地元農産物の使用拡大」・「⑩農業者や商工業者が連携し、新たな商品やサービスを開発する」は、回答数に差があるものの、多くの世代から選択されており、①・⑥と同様に、市が行う農業政策として、幅広い世代から期待されているようである

問 16 市の農林業の振興を図るためのアイデアや、市の農林業について日頃感じていることがあれば自由に記入してください。

<簡易抜粋>

- ・生産者の労に報いるとともに、後継者育成やコストダウン等に結びつく市政が必要だと思います
- ・景観等を保全してくださっている兼業農家さんへ一定の補助があると好ましいように素人ながら思いました
- ・従事者の減少と高齢化に対してどのような取組をしているのか？直接関係ない市民は、わかりにくいと思う
- ・農地で工作がされていない土地が荒れ放題となっている、地域からのクレームもあるが地主さんに依頼しても、地主さんも高齢化してどうにもならない土地が多くあります、こうした土地を活用できる対策を実施すべきだと思います。非耕作地の税金を高くするという話も聞きますが農地としての土地売買や貸土地等のしやすさの検討をすることも必要ではないでしょうか
- ・そもそも市がどのように農林業とか関わっているのかを知りません
- ・地元の野菜は、おいしいと思います。規格外野菜を沢山かえるお店があるといいと思います
- ・農業イベントは少ない気がするので拡充してほしい
- ・直売所だけでなく、ネット販売を充実させる
- ・農家の後継者がいないのでの高齢化により耕作放棄地が増え雑草が埋め尽くし、でもそれが気になってもその土地の地主さんにはできない。誰かにやってほしいと思っている人がいっぱいいると思う
- ・農地として使った方がいい土地も太陽光発電やそれもできない人はほって置くしかない。行政指導で何とかならないものなののでしょうか
- ・農業については、ほぼ同じ状況にある昭和村や川場村があれだけ元気にやっているのに、どうして渋川市は具体策がだせないのですか。問題は地域の頭脳とも言える市役所にあると思っています
- ・渋川は農林業においても日本のまんなかであると PR できる力が必要だと思う
- ・農畜産物のブランド化と農産物直売所の販売だけでなく、道の駅などの多目的施設を活用した販売。（川場の田園プラザやこもち道の駅など）
- ・林業については間伐材の活用や植林体験ボランティアの募集（足尾の植林ボランティアの活動を参考にする）
- ・小学生に郊外学習の一環で田植え体験